令和４年度　愛知県医療療育総合センター県民講座の開催について

テーマ　ゲノムから観た発達障害

令和５年２月25日㈯に、イオンモール Nagoya Noritake Garden３階イオンホールにおいて、令和４年度愛知県医療療育総合センター県民講座を開催しました。平成16年度から開催してきた県民講座も、新型コロナウイルス感染拡大防止のために一昨年度は開催中止、昨年度はオンラインでの開催でした。

本年度は「ゲノムから観た発達障害」をテーマに、センター内外から３名の講師を迎え、実に３年ぶりの集会開催が実現しました。一人の人間が持つ全遺伝子のセットである「ゲノム」に関しての知見の集積は、様々な病気に関する捉え方はもちろん、人間そのものの捉え方にも大きな影響を及ぼしています。発達障害の原因としてのゲノム変化も次々と報告される昨今、県民の皆様の関心の高さを反映して、定員を超える120名の参加応募をいただきました。

当日は、最初に発達障害研究所遺伝子医療研究部長の林深講師が「ゲノムを調べてわかること～発達障害をより深く理解するために」と題し、ゲノムに関する概説のほか、ゲノム解析で得られた知見が歴史的に有名な発達障害者の真の病態までも明らかにしてきたことを紹介しました。

次に中央病院長で遺伝診療科医師でもある水野誠司講師が「発達障害のある子どもの遺伝診療」と題し、まず「発達障害」の正確な定義を述べ、人により「発達障害」の捉え方に違いがあり注意が必要であること、「自閉スペクトラム症」や「注意欠如・多動症」など発達障害は主に症状診断であるがゲノム解析によりその中から様々な遺伝学的診断（原因診断）が可能になってきていることを紹介しました。

３番目に名古屋大学医学部附属病院認定遺伝カウンセラーの畠山未来講師が「発達障害と遺伝カウンセリング」と題して、まだまだ認知度の低い遺伝カウンセリングでは発達障害の方やご家族へ実際にどの様なサポートを行うのか、また近年の当事者から発信される情報の有用性なども紹介しました。最後の総合討論では参加者からの活発な質問や事前登録時の質問に対して、講師が丁寧な回答を行いました。ほぼ満席の会場には、長屋元コロニー総長や熊谷元こばと学園長、日本自閉症協会愛知県支部の岡田様などの懐かしいお顔もあり、主催者にとっても大変うれしい県民講座となりました。

医療療育総合センター　発達障害研究所長　中山　敦雄